

滿洲の各種資源が日本のそれに比して、如何に豊かであり、將來性を持つてゐるか
而して今後之等資源の開發が日滿産業界延いては兩國々運の上に如何なる影響を齎す
ものであるか研究すべき問題であらふ。

農産 滿洲は農業國である。現に可耕地面積三千三百萬町歩の中、既墾地は僅に其
の約半分一千六百萬町歩に過ぎないが穀物年産額は一千八百萬噸に及び、三千萬住民
の需要を充してなほ六百二十萬噸を輸出してゐる。

つまり、全産額の三分の二は國內で消費され、残り三分の一が輸出されてゐる譯で
日本に於ける一般農産物（綿花を除く）輸入總額の三十五%は滿洲の農産物である。
出廻農産物のうち首位を占めてゐる大豆は世界總産額の約六割を占め、滿洲に於け
る重要な物産であると共に世界的商品として歐米の市場に於ても壓倒的地位を占めて
ゐる。

その他、高粱、粟、玉蜀黍、小麥等多量に産出されるが、陸稻百八十萬石、水稻
百六十萬石の年産額を有する事も我々に取つては特に看過出来ない事實である。而も
將來水田百萬町歩、三千萬石程度にまで増加せしめる事は、難事でないといはれてゐ
る。

林産 滿洲の北部、つまり松花江、牡丹江及び豆滿江の上流、鴨綠江右岸地方は森
林地帯で滿洲全土の約三分の一を占める。立木蓄積料は百五十億石といふ豊富さで、
未だ斧鉞を入れない密林もあり、従つて老齡過熟の材木も非常に多い。

現在日本内地の用材需要量は約四千八百萬石で、その三割五分は移輸入材である。
わけてその八割までは米材に制せられてゐる始末であるが、將來日本の需要量は益々
増加し、米材の供給能力は漸次減少する事は齊しく認むるところであつて、かうし
た情勢の下で、日本より最も近距離にあり、且つ森林地帯を縦横に走る敦圖線、拉漢
線の新設を見、北鮮に其の終端港（羅津）が築造されつゝある今日、滿洲國の林産が

將來日本の需要に貢献すべき事は火を見るよりも明かである。

畜産

現在日本では、国内生産量だけでは到底消費量に及ばない爲め、羊毛、牛肉、鶏卵、牛乳、乳製品、牛皮、馬皮等を海外に仰ぎ、満洲からも供給を受けてゐる。

殊に羊毛の輸入率は国内全消費料の九九%九を示し殆んど濠洲から輸入してゐるのであるが、これに對し先づ考へられるのは満洲にある二百六十萬頭の羊であらふ。満洲在來の羊は、毛肉兼用種で毛質も粗悪であり、毛量も貧弱である。併しこれにメリノ種を交配して雜種を作ると、毛量は三倍し、毛質はメリノ同様の優良品が得られる事が發見され、満鐵では鋭意その改良を行ひつゝあるから、羊毛の將來は期待すべきものがあらふ。

鑛産

鑛物資源は工業資源とも謂ふべきもので、満洲の豊富な鑛物資源は日本の工業の對象として誠に力強い存在である。満洲の鑛産地は、未だ完全な踏査が行はれてゐないが、現に發見されたものだけでも二千箇所以上に上り、金屬鑛物、輕金屬鑛物、非金屬鑛物の殆んど凡てを具有してゐる。

鐵の需要は文明のバロメーターだと云はれるが、現在日本の鐵鑛需要年額三百七十萬噸の中、約八割までは支那と南洋から輸入してゐる。よしんば、これを國內埋藏の鐵鑛に求めるとしても、總埋藏料八千萬噸であるから約二十年間にして日本は寸鐵も帯びなくなる譯である。殊に列國の鐵鑛埋藏量は孰れも十億噸以上であるから、日本の埋藏量を以てしては到底世界列強に伍して行く事は出來ない。たゞ満洲の十二億噸を加算すれば鐵鑛の自給自足がどうか確立されるのである。満鐵に於ては銑鐵年産百萬噸、それに伴ふ製鋼年産八千萬噸產出の大抱負を以て大正八年から鞍山製鐵所の營業を開始し年々二十八萬噸の銑鐵を生産しつゝあるが、生産能力は四十萬噸を保有してゐる。又日滿合辦の本溪湖煤鐵公司でも八萬噸餘の製鐵年産あり、將來此等製鐵所が統制擴張されるに於ては、日本の製鐵自給自足國策の確立も難事ではない。

石炭

埋藏量は約四十八億噸と見られ今後の調査により更に増大するであらうが、現に滿鐵經營の撫順の如きは東洋一の大露天堀を有し、年産七百萬噸のうち其の二割五分は内地に移出してゐる。日滿産業統制の試金石と謂れた撫順炭内地移入制限問題

總所が統制擴張されるに於ては、日本の製鐵自給自足國策の確立も難事ではなす。

石炭 埋藏量は約四十八億噸と見られ今後の調査により更に増大するであらうが、現に滿鐵經營の撫順の如きは東洋一の大露天堀を有し、年産七百萬噸のうち其の二割五分は内地に移出してゐる。日滿産業統制の試金石と謂れた撫順炭内地移入制限問題も今日では圓滿に解決され、合理的協調によつて移入が行はれてゐる。

油母頁岩 は撫順炭田の上面を約四百五十呎の深さを以て覆ふてゐるチヨコレト色の岩層で、埋藏量約五十四億噸、その含油量六%と見られてゐるから、優に三億噸以上の原油が得られる譯である。滿鐵では早くより之が利用法に着目し、撫順に製油工場を設置して現在重油四萬八千噸のほか副産物としてパラフリン、硫安、骸炭等を得つゝあるが、本工場は未だ第一計畫の設計を竣へたに過ぎず、將來擴張の曉には、我國液體燃料問題の解決にとつて重要な存在である。

其他金・銀・銅・鉛等の産もあるが、大石橋附近のマグネサイト、煙臺・本溪湖附近の耐火粘土等は特に注意すべきものであらふ。

新興滿洲國の使命

東亞永遠の平和を護る盟友として、その重責を双肩に擔ふて生れたる、新興滿洲國の將來はまさに洋々たるものあり、國土に無限の寶庫を有し、盟邦日本の援助をうけて着々その内政を整備し、外國交厚く、東洋の天地に平和の氣みなざりつゝ有り、然りと雖も、西歐諸國の風雲何んとなく急なるものあり、不安は日一日と増大しつゝある時、その課せられたる重責の一半を完全に將すことを寸時も忘れてはならない、かしくも滿洲を發祥地として中國全土に號令し給へる清朝、先の宣統帝を皇帝に御迎して、その國是を中外に宜明せる以上、東洋平和の確保を期し、延ては世界平和に貢獻することに全力を注ぐ可であり、これが滿洲國建國の一大使命である。

國都新京

沿革

新京(長春)の沿革はさして古くはない。はじめ乾隆年間に漢人が蒙古郭爾羅斯前旗の放牧地であるこの地附近一帯に入植して開墾をはじめ新京の北方十餘支里に「長春堡」が設けられ、清の嘉慶年間(西紀一八〇〇年)に長春廳が出来、道光五年(一八二五年)現在の寛城子に移應し、民國二年(一九一三年)に長春縣が設置されたのである。

當時微々たる小邑であつた長春も、一八九九年東清鐵道の南部線が敷設され、寛城子に停車場が設置されるとともに漸次人口が増加し、人口六、七萬を算するに至つた。後、一九〇五年日露講和條約に依り、日本が長春以南の鐵道を露國より譲り受け、滿鐵を設立して城内、寛城子間の荒原を買収し日本人の設計によつて附屬地の都市を建設したのである。その後、北京條約により長春が商埠地となつた時、城内と附屬地との間を劃して商埠地となし商民の移住を奨励した結果、城内に劣らぬ繁盛を呈し、人口約十萬の都市となり、建國に至つたのである。

位置、地勢

新京は吉林省長春縣に屬し、北緯四十三度五十五分東徑百二十五度十八分の位置にある。新京より主要都市間の距離を示せば次の如くである。

地名	距離	地名	距離
大連	七〇二	吉林	一二八
敦化	三三九	安東	五八一
		羅津	六七一

齊々哈爾	五一〇	營口	四八五	滿洲里	一、一七五
哈爾濱	二四〇	浦潮斯德	一、〇二一	熱河	七二五

敦 化 三三九 安 東 五八一 羅 津 六七一

齊々哈爾 五一〇 營 口 四八五 滿洲里 一、一七五
哈爾濱 二四〇 浦潮斯德 一、〇二一 熱 河 七二五

面積及人口

既設市街の面積は次の如くである。

滿鐵附屬地 約五平方料
商 埠 地 約四平方料
城 内 約八平方料

新京は一九三〇年三月末には城内商埠地合せて約九萬人であつたが、國都となつてから一年有半後で早くも五分餘増加し一四〇、八四五人（大同二年十二月）である。これを奠都前の一九三二年一月末人口に比較すれば戸數五千四百七十九戸（二割七分強）を増し人口に於いて五萬四百四人（五割五分）を増してゐる。

滿鐵附屬地

昭 和 年 代	戸 數	人 口
昭和六年（一九三一年）十二月末	五、九一四人	三二、六三六
昭和八年（一九三三年）十二月末	八、七四三	五一、一三六
増 加 數	二、八二九	一八、五〇〇
増 加 率	約五割六分七厘	

寬 城 子

昭 和 年 代	人 口
昭和六年（一九三一年）	四、四九三人
昭和九年（一九三四年）	八、〇〇一人

新京總戸數は三六、一七〇戸で全人口一九九、九八二人、事變前に比して七三、〇〇人約五割の人口増加である。而して、二年前まで茫茫たる草原に三五の茅屋の點在するにすぎなかつた南方區域には多數の住宅建設せられ新建設區域にのみ目下五千人の人口を包擁してゐる。

國都建設狀況

吉林省の都邑にすぎなかつた長春が、滿洲國成立とともに一躍して首都となつて以來、飛躍的な發展を遂げ、五ヶ年計畫人口五十萬を包擁する國都としての偉容を刻々築きつゝある。

國都を建設する爲め、特に大同二年四月以來國都建設局を設け、模範都市實現を目標とし、特別會計を設け資金五百萬圓を以て着々建設事業を進捗せしめてゐる。

國都建設計畫の區域は、面積二百平方籽で、うち百平方籽が第一期五ヶ年計畫の事業區域で、このうちから附屬地と舊城内、商埠地を除き施行面積は約七十九平方籽である。これらの區域を公園、住居、商業、官廳、工場等の區域に分ち、中心を新京驛の南約二籽大同廣場の地點に置き、新京驛南方約五籽の地點に中央停車場を設置する計畫である。尙ほ新京を中心とする國道を計畫し、新京より主要地への道路を新設してゐるが、その主なるものを擧ぐれば

- (一) 農安扶餘道路 一六〇籽
- (二) 懷德、公主嶺道路 一〇〇籽
- (三) 奉天道路 二七〇籽
- (四) 伊通道路 七二籽
- (五) 雙陽道路 五〇籽
- (六) 吉林道路 一一四籽
- (七) 哈爾濱濱道路 二三五籽

である。目下工事中の吉林道路完成の曉には滿洲の古都吉林へ快適なドライブが出来る。

市内の街路は大同廣場を中心に放射し街路の幅員は六十米、五十四米、四十五米、三十八米、二十六米、幹線と十八米、十四米、十米の支線を持ち放射形状と矩形の

併用による二線直角交叉の近代街路が出来、舗装された車道と人道と街路樹の並樹と相俟つて美しい國都を形成するであらう。

既に現在まで道形工事を完成した道路の延長は約二十九籽約百九十萬平方籽である

三十八米、二十六米、幹線と十八米、十四米、十米の支線を持ち放射形状と矩形の

併用による二線直角交叉の近代街路が出来、舗装された車道と人道と街路樹の並樹と相俟つて美はしい國都を形成するであらう。

既に現在まで道形工事を完成した道路の延長は約二十九軒約百九十萬平方軒である

上水道は南新京驛より十八軒の地點、新京東南方腰站到貯水池を設け集水する。

貯水面積は七八平方軒で貯水面積四、六六平方軒、貯水量二千七百萬噸、有効水深九

米、一日の給水量四萬噸であつて、康徳二年秋完成の豫定である。現在上水鐵管埋

設總延長約四七、六〇〇米、施工濟區域面積二平方軒。

下水道は水管布設總延長約四四、六〇〇米、施工濟區二平方軒である。

尙ほ公共用地としては

鐵道西墓地 七五〇、〇〇〇軒

ゴルフリンク 五〇一、四〇〇軒 四割完成

競馬場 四七九、九五〇軒 九割完成

馬場一周 二、〇〇〇米

南嶺綜合運動場 一、四四〇、〇〇〇軒

公園

大同公園 二四七、五〇〇軒 五割完成

白山公園 一四六、〇〇〇軒 三割完成

牡丹公園 一四五、〇〇〇軒 今年着手

皇宮(杏花村) 約二四〇、〇〇〇軒

の如きものがある。

國內重要都市

奉天

南滿洲中部の要樞に位し政治經濟の中心をなすものは奉天である。奉天は瀋陽とも稱へられ清朝の太祖がこの地に都を奠められてから盛京と稱し殷賑を極めた。その後、北京遷都と共に奉天府を置き民國に至つたが、國民政府の成立後遼寧と改稱し張政權の本據として發展したものである。

奉天は城内、商埠地及び滿鐵附屬地に分れてゐる。滿鐵附屬地は日本の設計になる近代都市で面積二八〇餘萬坪、街路廣く悉く舗装された坦道である。

南滿洲鐵道はこの地で安奉線と合し、更に奉山、瀋海の兩鐵道と相會し歐露、支那内地、朝鮮各地への中繼地として重要な地位にあり、物資集散の大市場である。

奉天城は内城、外城に別れ内城は清の太宗の築造にかゝり、周圍約十五里東西南北に各大小門を開き、外城は順治帝時代の築造で周圍約三〇里に及んでゐる。此地は清朝の發祥地として名所古跡に富み滿洲舊都の第一である。滿洲國々立博物館及國立圖書館があり、館内には滿洲の歴史を語る紀念物及び四庫全書をはじめ數萬冊の圖書を藏してゐる。

北陵は奉天驛を去る一里半の地點にあり清の太宗皇帝を葬つたもので鬱蒼たる松林の中に輪奐の廟宇が建てられてゐる。東陵は清の初祖太祖を祀つた陵で奉天の東方三里、絶勝の地として名高い。

奉天城内と附屬地の中間にあるものは商埠地で、外國商館、銀行、各商店等櫛比し賑かな商業地となつてゐる。奉天の人口は約四十萬（附屬地を含む）と稱せられ、哈爾濱に次ぎ滿洲第二の都會である。奉天は建國後市制を敷き新市長閣傳統を任命し

近代都市としてめざましい發展をつとけてゐる。

哈爾濱

哈爾濱に次ぎ滿洲第二の都會である。奉天は建國後市制を敷き新市長閣傳被を任命し

近代都市としてめざましい發展をつづけてゐる。

哈 爾 濱

哈爾濱は北滿の大動脈松花江の右岸に位し、水陸交通の要衝にあたり、北滿經濟の心臟で人口四十餘萬を擁し滿洲第一の都會である。

即ち、北滿鐵道の中心地として東方は綏芬河を経て浦鹽港に、西方は滿洲里を経て歐露に連り、南方は新京に於いて滿鐵と聯絡する。更に、拉賓線の完成によつて拉法に於て京圖線に聯り、北は呼海線齊克線の開通により北滿穀倉地帯と聯り交通の鎖鑰たる地位を保持してゐる。

哈爾濱はもと江岸の一寒村にすぎなかつたが、露西亞が東清鐵道（今の北滿鐵道）の敷設權を得て以來、極東政策の支點たらしめる目的で東洋のモスクワを企圖して建設したものである。即ち、一八九三年舊哈爾濱に根據を置き土地を買收して新市街建設用地となし、更に一八九七年に至り大々的に土地を買收し、理想的都市建設の歩をすゝめたが、北清事變に禍され、更に日露戰爭の敗戦によつて一頓挫を來し、世界大戰後革命勃發し勢力を失墜したが、地理的に好條件にめぐまれてゐるためと、建設に對する官民の努力は僅かに半世紀を出ずして近代的國際都市たらしめたのである。

市街は新舊兩區に別れ新市街は北滿鐵道の附屬地であつたところで、丘陵地にあり、官衙、學校、會社等も多く新市街に在り、舊市街は埠頭區、傳家甸であつて商業街である。埠家甸は、純然たる滿人街で商業極て活潑である。

哈爾濱は哈爾濱特別市（濱江市、埠家甸—吉林省濱江縣に屬す）市政管理局直轄市區及び松浦市の四市に分立し各々異つた行政を施行してゐたが、建國後哈爾濱市政籌備處を設け其の合併統一を計畫し、大同二年七月一日より特別市制を布き呂榮寰を市長に任命した。

此地の集散物資は特産物、各種工業製品で、貿易、商業ともに殷盛を極め、工業も製粉、製糖、製油、電気、製材、造船等の工場あり、殊に製粉業は盛んである。

官公署は北滿特別區公署、特別市公署をはじめ、北滿鐵道管理局、日、英、米、獨等の領事館あり、住民もロシア人を初め各國の人種雜居し、國際都市の色彩濃厚である。

吉林

吉林は吉林省の主都で松花江岸に位し、京圖線に沿ひ吉會線の起點に當り、省公署の所在地で、滿洲事變後、最初に獨立した由緒を有つ土地である。

此市は明代から著名で、滿洲語の吉林烏喇即ち「大江の沿岸」の意から吉林と呼稱さるゝに至つた。古くから松花江舟航の要津として知られ、又北京から奉天を經由して此地まで官路が開けてゐた。

京圖線及び拉濱線の開通により北滿及び北鮮日本海に接續する重要地點となつた。

市街は城内、商埠地に分れ、北西は山岳を背負ひ、南方は江に臨み、人口約十四萬人を擁し、商業股脈を極めてゐる。山岳地帯なる爲め特産物の産出は少ないが、木材の産出多く、總産額の七割はこゝで取引される。工業としては電燈、製材、燐寸、製油、製粉、醸造、製紙、硝子、鐵、木器等である。

吉林は山水に恵まれ、風光明眉で市の附近に名所が多く、就中江南公園、北山、龍潭山等は著名である。

齊齊哈爾

黑龍江省の首都で省公署の所在地である。清朝の康熙二十八年（一六八九年）ロシア帝國の北邊侵略を防衛するため副都統を設け黑龍將軍に屬せしめ、同三十八年將軍

を北方墨爾根からこゝに移駐せしめ、初めて黑龍江省の省城となつたのである。その後一九〇四年十二月日清條約附屬協約に依つて外國との貿易市場として開放され、黒河、海拉爾に通ずる驛路にあたり、北滿平野を貫く齊北、濱北の連絡により北滿經

ア帝國の北邊侵略を防衛するため副都統を設け黒龍將軍に屬せしめ、同三十八年將軍

を北方墨爾根からここに移駐せしめ、初めて黒龍江省の省城となつたのである。その後一九〇四年十二月日清條約附屬協約に依つて外國との貿易市場として開放され、黒河、海拉爾に通ずる驛路にあたり、北滿平野を貫く齊北、濱北の連絡により北滿經濟重要地點となり將來の洋々たる發展を約束されてゐる。

市街は嫩江左岸に位し、二重の城壁を繞らし、外城は東西約一料、南北〇、六料五門を開き商工業街である、内城は磚城といひ、官衙街であつて周圍約一料の方城で四門を有してゐる。

農産物の集散地で商業殷盛である。

建國後大同元年七月市政局を設け市政を布いてゐる。

熱河（承德）

承德は熱河省の省城で省公署在り、承德離宮として知られる。

北平より約百餘哩、山岳地帯にあり、熱河の右岸に位し古より開けた土地で清朝と深き關係を持つてゐる。乾隆帝の時代に離宮が置かれ、歴代の皇帝はこの地に行幸された。國民政府に至り省制を布くに及んで省政府の所在地となつた。

此地は赤峰、朝陽、北平に通ずる要路で且つ離宮の所在地として繁榮を極めたが、民國以來漸次衰微し人口も僅三萬足らずである。

建國後約一年の間湯玉麟が蟠踞してゐたが、大同二年春の熱河肅清によつて舊軍閥の勢力は驅逐され、完全に我勢力範圍となつた。

尙事變後上述各主要都市に於ける日本人々口は次表の如くである。

主要都市日本人人口

都市別	大同二年末	康徳元年六月末			根 據
		總 數	内地人	朝鮮人	
新 京	四、六八六 (三六、三〇九)	(1) 五、四一五 (三九、六〇〇)	四、八三五 (三九、六〇〇)	一、五八〇 (二、八九六)	首都警察廳調査報告
哈 爾 濱	一四、三〇三	(2) 一六、九三一	一二、二四五	四、六八六	領事館警察署調査 哈爾濱日日新聞所載
奉 天	六、五五九 (三九、五五九)	六、九三六 (四四、六一〇)	三、三三三 (四三、一七九)	三、六一三 (一、四三一)	瀋陽警察廳調査報告
吉 林	六、五一八	七、三六六	四、六六六	二、七〇〇	吉林警察廳調査報告
齊 々 哈 爾	三、一二七	(3) 三、〇八四	二、四四三	六四一	齊々哈爾警察廳調査 報告
承 德	九三〇	(4) 一、〇六四	?	?	調査機關不明 新京日日新聞所載
安 東	三五四 (二五、二八八)	(三六、〇四八)	(一一、四三三)	(一一、六二六)	
營 口	四六七 (四、二四八)	四九四 (四、〇六二)	三〇七 (三、六三八)	一八七 (四、四四)	奉天省公署報告
(4)(1) 七月末現在 四月末現在	(2) 七月末現在	(3) 内地人二八五人増、朝鮮人三一八人減			

貿 易

滿洲國は農牧林業等の原始産業を主要産業とし貿易は農産品の輸出にはじまつた歴史を持つてゐるだけに貿易に於いて農産品の占むる位置は重く輸移出總額の約八割は農産物及びその加工品である。然して輸入品は綿布をはじめ化學工業品機械工業及品び食糧品等である。

初め滿洲の貿易は沿岸貿易がその大半を占め而かも之を營む者極めて少數で殆ど論ずるに足らなかつたが、西紀一八六四年に、牛莊(營口)が開港せられ初めて滿洲の經濟と世界經濟とが源泉を備へたのである。



初め滿洲の貿易は沿岸貿易がその大半を占め而かも之を營む者極めて少數で殆ど論ずるに足らなかつたが、西紀一八六四年に、牛莊（營口）が開港せられ初めて滿洲の經濟と世界經濟とが切線を描いたのである。その後帝制ロシアの極東經營、並に日露戰役後滿洲に於ける日本經濟力の發展等により大連安東をはじめ各港の貿易漸次發展を極め特に大連港は飛躍的發展をなし、滿洲貿易は著しい躍進をとげた。

一九〇七年貿易總計五千九百九十三萬海關兩であつたのが、一九二九年にはその十二倍七億五千六百二十四萬六千海關兩に増加し、出超を續け、一九三〇年及び大同元年度に於いてはいづれも二億萬海關兩を突破してゐる。然るに滿洲國の成立により建設工作の進捗による輸入の激増と世界經濟恐慌の餘波を蒙つたこと、事後の治安紊亂による出廻不足等の原因によつて大同二年度に入り入超に變じた。入超の事實は一九一八年及び一九一九年以來はじめてである。

我國の開港場は前述の如く牛莊の開港を先驅とし一九〇七年より兩三年の間十二の開港場を持つた。

開港場及び開港年月は次の如くである。

港別	開港年月	港別	開港年月
牛莊	一八六四年五月	安東	一九〇七年三月
大連	一九〇七年七月	大東	一九〇七年十月
滿洲里	一九〇七年二月	瑯瑯	一九〇七年七月
三姓	一九〇七年七月	哈爾濱	一九〇七年七月
綏芬河	一九〇八年二月	琿春	一九一〇年五月
龍井村	一九一〇年五月	拉哈蘇々	一九〇九年七月

備考 大東溝は安東稅關に屬し、滿洲里、綏芬河及拉哈蘇々は哈爾濱稅關の管下である。尙三姓は元哈爾濱の管下にあつたがその後撤廢された。

滿洲國の貿易の發展を表示すれば次の如くである。

(單位百萬海兩)



年次	輸出	輸入	總貿易額	指數	輸出超過 (一) 輸出超過 (二) 輸入超過
一九〇七	二四・四	三五・五	五九・九	一〇〇(一)	一一・〇
一九一〇	一〇九・〇	一〇三・九	二一二・九	三五五	五・〇
一九一六	一三〇・八	一二九・五	二六〇・三	四三四	一・二
一九二一	二三四・四	二一八・一	四五二・五	七五五	一六・二
一九二六	三七〇・一	二七七・四	六四七・六	一、〇八〇	九二・七
一九三〇	三九六・七	三〇六・九	七〇三・七	一、一七四	八九・七
一九三一	四七八・五	二二三・四	七〇一・九	一、一七一	二五五・一
大同元年	三九四・九	一九二・九	五八七・九	九八〇	二〇二・〇

我國の貿易は通常東滿、北滿及び南滿の三區にわけて見られてゐる。東滿地方は主として琿春、龍井村に由り、北滿地方は哈爾濱、瑯璪に、南滿地方は大連、安東及び營口の所謂南滿三港に由るものであるが、大同元年度の大連税關の取扱つた貿易額は四億二千三百四萬三千海關兩、安東税關五千八百六十四萬三千海關兩、營口税關七千四百二十二萬三千海關兩、合計五億五千三百一十一萬海關兩で總貿易額九四%を占めてゐる。次は哈爾濱及び瑯璪税關の取扱ふものは四・九%で東滿は更に少く總額の一・三%にすぎなう。

税關の接收

大同元年三月五日當時奉天にあつた東三省政務委員會は税關監督顧問なるものを任命し、之を大連、瑯璪を除く各税關所在地に派遣し、同月末より四月中旬に至つて税關實收の差押を行つた。

次いで六日大連税關職員の總辭職を機として各地税關の強力接收を行ひ六月下旬その接收を完了した。滿洲里は大回元年十二月七日確實に之を回收し、綏芬河は大回三年一月九日、同江は六月三日夫々正式に分關事務を執行するに至つた。

熱河肅清後、承德、山海關にそれ〴〵税關を設置し事務を開始した。目下税關所在

地は、大連、安東、營口、圖們、龍井村、山海關、承德及び哈爾濱である。

大同二年度の外國貿易は之を對手國別に見るに、輸出入とも日本が其の首位を占め

中華民國之に次ぎ以下獨乙、朝鮮、米國、蘇聯、英國等である。先づ國別による輸入

熱河肅清後、承德、山海關にそれ／＼税關を設置し事務を開始した。目下税關所在

地は、大連、安東、營口、圖們、龍井村、山海關、承德及び哈爾濱である。

大同二年度の外國貿易は之を對手國別に見るに、輸出入とも日本が其の首位を占め
中華民國之に次ぎ以下獨乙、朝鮮、米國、蘇聯、英國等である。先づ國別による輸入
品を見るに

日本内地より——綿織物を初め綿織糸、棉花、毛及び毛綿及び織物、米、麥粉、砂糖

藥品及び藥材、水産物、酒類、建築材料、紙類、鐵及び鋼機械、機器、其他金物類

車輛類、木材及び電氣材料、化粧品、石鹼、麻袋及び一般雜貨類

朝鮮より——砂糖、木材、皮革

支那より——下級絹絲布、棉花、煙草原料、絹織物、米、麥粉、水産物、食料品、藥

品及び藥材、紙類、陶器類、石鹼其他

和蘭——鐵及び鋼、機械機器、建築材料其他

米國より——棉花、綿織物、麥粉、煙草、石油、機械油、機械機器、建築材料其他

英國より——綿、毛及び毛綿交織物、煙草、染料、藥品及び藥材、鐵及び鋼、機械及

び機器其他

獨乙より——染料、毛綿交織物、藥品及び藥材、機械機器、車輛類

蘭領印度より——石油其他

白耳義より——鐵及び鋼其他

(註) 右は南滿三港より輸入されるものである。

次に我國より外國へ輸出される、物資に就て見るに、

日本へ——豆粕、大豆、石炭及びコークス、豆類、鐵及び鐵製品、柞蠶糸、種子類、

皮革、鹽、小麥、豆油、其他

支那へ——大豆、石炭、コークス、豆粕、種子類、鹽、鐵及び鐵製品、木材、高粱酒

其他

- 和蘭へ——大豆、豆油、種子類、其他
- 米國へ——豆粕、油粕、皮革、大豆、其他
- 英國へ——豆油、大豆、豆粕、其他
- 獨乙へ——大豆、金屬、金物類、種子
- 蘭領印度へ——大豆
- 白耳義へ——豆油
- 佛蘭西へ——種子類
- 比律賓へ——石炭及びコークス
- 伊太利へ——大豆

我國から外國への輸出品は我國の特産物といはれる大豆、豆粕、豆油其の他の農産品、鹽、木材、石炭等の原始的物資がその大部分を占めて、原料國たることを物語つてゐる。

通貨及び金融

通貨

從來滿洲の金融制度は亂雑且つ不完全で金融の中樞機關たるべき各省の官銀號すら舊軍閥の爲に紙幣の濫發をなし或は銀行業務以外の事業に力を傾注し、不換紙幣濫發による危険は一般民衆殊に生産者に轉嫁せられ、通貨の不統一と複雑は民衆の生活を危険と不便に曝らした。

然るに滿洲國成立以來新京に中央銀行を設立して貨幣の統一と舊紙幣の回収に努力した結果、大同元年六月開辦當時引繼いた舊紙幣一億四千二百萬圓のうち本年六月末まで既に一億三千二百三十五萬圓(約九三%)を回収した。

滿洲に流通した舊紙幣は本年七月一日以降その流通を禁止されることになつたのであるが、その名稱は次の如くである。

まで既に一億三千二百三十五萬圓（約九三%）を回収した。

滿洲に流通した舊紙幣は本年七月一日以降その流通を禁止されることになつたのであるが、その名稱は次の如くである。

發行所	名稱
一、東三省官銀號發行の兌換券	現大洋票
二、邊業銀行發行の兌換券	同
三、遼寧四行號準備庫發行の兌換券	同
四、東三省官銀號發行の滙兌券	奉大洋票
五、公濟平市錢號發行の銅元票	奉小洋票
六、東三省官銀號發行の哈爾濱大洋票	（有監理官印）
七、吉林永衡官銀錢號發行の哈爾濱大洋票	（同）
八、黑龍江省官銀號發行の哈爾濱大洋票	（同）
九、邊業銀行發行の哈爾濱大洋票	（同）
十、吉林永衡官銀錢號の官帖	吉林官帖
十一、同	小洋票
十二、同	大洋票
十三、黑龍江官銀號發行の官帖	江省官帖
十四、同	四釐債券
十五、同	江省大洋票

從來、以上十五種に亘る紙幣の外、營口に過爐銀、安東の鎮平銀等の流行するあり
又私帖と稱する地方流通紙幣がある。營口及び安東の馬蹄銀は既に流通か停止され、
又建國當時以後各地僻陬地にて流通した一千二百萬圓以上の私帖も漸次整理され、茲
に最も困難とされた貨幣の統一が略完了したのである。

今貨涓法による我國の紙幣鑄貨を見るに、
紙幣——百圓、十圓、五圓、一圓、五角の五種
鑄貨——一角、五分、一分、五厘の四種に分たれる。

尙ほ、大同三年一月末に於ける紙幣發行高、月別による紙幣發行及び舊紙幣回收高は次表の如くである。

この外、吾國內に於いて流通する外國貨幣は日本貨幣で全銀行の發行する銀紙幣、「鈔票」朝鮮銀行の「金票」の外日本銀行券、日本補助貨幣などあり、鈔票は特産、爲替資金として信用厚く、鮮銀券と相俟つて關東州、滿鐵附屬地等で専ら流通されてゐる。

金 融

金融機關の整備は我國經濟建設の一の重要な使命であつた。故に從來紊亂不統一の金融機關を統一する爲め大同元年六月滿洲中央銀行を創立し、資本金三千萬圓（半額拂込）とし、半官半民の株式組織で、總行を新京に置き、全國百二十三ヶ所に分支行を置き、金融の圓滑な流通を圖る事としたのである。

歡迎盟邦的皇帝陛下

在亞東和平史上、劃出了充滿光輝的一頁、那樣的、消息傳來的時候、真令人不勝其歡欣鼓舞之至！滿洲全國、在此柳芽初綻、春光正媚之中、山川草木、均有一陽來復、萬象更新之概。首都新京的禁苑之內、也是蘭花馥郁、清香宜人、今日何日、豈不是康德二年四月二日麼！（昭和十年四月二日）是日也、前夜那種可憂慮的風雲、也似乎無所依戀地消聲匿跡了。當着東方微明、旭日方升的清晨、滿洲國皇帝陛下、聖姿英明、龍顏颯爾、帶着八十餘名的隨員、駕出宮廷、儀仗雄麗、蜿蜒成列、令人起尊敬之念、日滿兩國人士、均具有一片赤心、滿腔熱誠、奉送於道、當其到着新京車站之時、皇禮大砲、聲震全國、午前六時五十五分、向着大連、而就其訪問盟邦日本之壯途、這個事情、對於確定亞東和平一層、是有重大意義的。現在滿洲國三千萬臣民、一方面祈禱着皇帝陛下的旅中、平安吉慶、他方面想起山清水秀、花紅柳綠的日本之春景、在此舉國興奮之中、自然而然地不禁有一種狂喜之情、湧現出來罷。皇帝陛下乘着「亞細亞號」的火車、途中經過公主嶺·四平街·開原·鐵嶺·奉天·遼陽·海城·大石橋·瓦房店·金州等各車站、對於非常熱誠的奉送者、均賜以鄭重的溫慰、午後五時二十分、到着大連、於是乘坐軍艦「比叻」、午後六時、大連出港、御駕直向日本出發了。

現在正是歡迎滿洲國皇帝陛下之日、（昭和十年四月六日）橫濱港真可謂河山生色草木榮啊、東方未白、軍艦比叻、通過靜岡縣下海洋當中兒的時候、已經微現於吾人之眼前、旋即朝暾東上、晴空一碧、天意人事、若相呼應、該港人民、得此二重喜事、不期然而然地通都要手舞足蹈起來了。

請看呀！五色旗和太陽旗、在新港橋一帶、豈不是花々綠々地交相奔流着嗎！無論退伍軍人或小學生、無論老少、同樣地表示一種誠心、一種喜色、就是正在、開會的大博覽會之裝飾、今日也好像增加光彩、特別起勁似的、哎喲！橫濱現區、成爲五光十色的都會啊！第四號碼頭上的中央進門口、及其先端處臨時建築的浮橋之前、日滿兩國國旗、緊緊地握着手、在此良辰美景之內、飄揚於爽快的曉風之中。轉眼一着、朝霞罩

着海面、一望無際、港內全部船舶、均飾以華美的色彩、尤其是巨姿偉容、雄視灣內的巖島·那智·那珂三儀禮艦、更加使人驚心炫目、海陸雙方、時々刻々、奏着奉迎的音樂、響入雲霄。當此萬衆欣然待望之際、忽報時刻已到、於是禮砲與喇叭之聲、轟然而起、一百餘架的飛機、並着銀翼、高翔於空中、吾輩且可聞其爆音、此種聲音、實係奏着日滿友誼的偉大歌曲、旋即比叡軍艦、也威風凜凜地駛入港口來了。五色旗飾在艦上、頗像時露喜悅之色、早已凝視着陸地、表示答禱似的。我們轉面向第五號碼頭的後方一望、那裡就有一個富士山、在此紅日高照之中、歡迎着皇帝陛下啊。前方的伊勢山、掃部山公園之內、美麗的櫻花、現在正滿開着、好像似布了一幅淡紅色的幕、遠々地望着、綠滿大地、恰如蓬萊仙境、那種草木、那種花卉、那種山川、那真是在滿洲國所看不到的景緻啊！在初出海外、且得無恙而上陸的陛下看來、瞧着這個光景、當作如何感想呢！兼且因爲歡迎起見、秩父宮殿下也特乘輕舟、駕臨此間、不久艦內將呈一種互相交驩之景象、無論海陸、在萬歲聲爆發之前、靜悄悄地被壓倒於嚴肅的空氣之內、不知不覺之中、弄得人々歡欣無狀、耳紅目赤了。四月六日、天方初曉、帝都似乎早已入於大奉迎陣的漩渦之中、無數群衆、爭光恐後地整列道旁、佇候駕臨、東京全市、到處可見老幼之喜容、可聞男女之笑聲、并且天地明興、微陰初晴、普照其春色燦爛之帝都、兩國、國旗、在此惠風和暢之中、交相輝映、更爲之增色不少、東京車站附近、午前七時左右奉迎者蜂擁而來、堵列滿路、二重橋前、一方面歡迎滿洲國皇帝陛下、他方面遙拜天皇者接踵而至、頗像將今日之喜事、當上奏於君門九重之內似的。軍人方面、既有近衛步兵第二聯隊二個中隊整隊而待、又有戶山學校軍樂隊堵列於途、此外近衛師及第一師也派隊伍均齊聚於東京車站之前、表示歡迎、此種隊伍、捧持軍旗、肅然而立、吾輩觀此情景、對於滿洲國之歷史、生出無限感慨啊。午前十時左右、退伍軍人團·青年團·國防婦人會·宗教團、也各穿制服、陸續地奔馳而來、二重橋的空敞之地、各團體之代表者、也各就所定之位置、恭々整々地整列着。自警視廳起、到虎之門一帶各部官吏、排列道旁、自虎之門至赤坂見附一帶、普通一般的奉迎者、人山人海、擁擠其間、赤坂離宮（皇帝陛下的旅館）附近、市立各小學校的男女學生代表、在各校長統率之下、持着校旗、鵠立以待、全市之中、在此萬歲聲爆發之前、好像被包圍於一種莊嚴而且肅靜的雰圍氣

之內似的。帝都歡迎皇帝陛下之準備、可謂盡善盡美了。此情此景、恰是歡迎皇帝陛下之日、真是日滿親和至高的象徵啊。

皇帝陛下午前十一時三十分、駕臨東京車站、於皇禮砲轟々然聲震遠近之中、得着初

鶴立以待、全市之中、在此萬歲聲爆發之前、好像被包圍於一種莊嚴而且肅靜的雰圍氣

之內似的。帝都歡迎皇帝陛下之準備、可謂盡善盡美了。此情此景、恰是歡迎皇帝陛下之日、真是日滿親和至高的象徵啊。

皇帝陛下午前十一時三十分、駕臨東京車站、於皇禮砲轟々然聲震遠近之中、得着初蒞帝都第一步之印象、一國元首、正式來訪、實係空前盛舉、是以天皇陛下、特別駕臨月台之內、躬行歡迎、兩國元首、互相握手、是乃皇國九千萬同胞和盟邦三千萬民衆所焚香禱祝的歷史的一瞬間、締結兩國親善的鎮鑰、將以此時爲轉機、更加強化、互相維持東亞和平、從此以後、兩國友誼、將奠於磐石之安、萬古也不會變易的。現將此日模樣、詳記於左。天皇陛下午前十一時十分、駕出宮城、隨帶鈴木侍從長・湯淺宮相・本庄侍從武官長等、乘坐汽車、午前十一時二十分、貴臨東京車站、天皇陛下此日玉體特別清麗、旋與高松宮、閑院宮兩殿下及各皇族殿下相會、在便殿少憩之後、松平式部長官引導於前、在奏着國歌(君代)之聲中、移玉於第三月台。因爲歡迎皇帝陛下起見、朝香近衛師團長宮殿下・岡田首相及各國務大臣・牧野內府・田代憲兵司令官・小栗警視總監・橫山東京府知事・牛塚東京市長・芳澤前外相・宇佐美前滿洲國顧問等、滿洲國方面則有丁滿洲國公使並其館員、其他親近官待遇以上的官吏、無論何人、均身穿大禮服之正裝、光輝燦爛、照耀全站、天皇陛下對於此等人物、賜以慰勞之意之後、就其所定之位置、等待火車之到着、旋即前方交叉日滿兩國々旗的特別花車、徐行而來、午前十一時三十分、安抵站內、於是空中的皇禮砲之聲音與地下的軍樂隊之聲音、同時並奏、誠可謂「聲震天地、響徹雲霄」矣。秩父宮殿下引導皇帝陛下同時下車、足履紅絨毯上、慢步於天皇陛下之前、經秩父宮殿下之介紹、兩國皇帝陛下、互相緊抱其第一次最誠懇之手、其態度之莊嚴、其姿勢之雄偉、是當永遠銘記的。旋即天皇陛下、經原田式部職御用掛的翻譯、犒其皇帝陛下不遠重洋疊海而來之勞、皇帝陛下亦深謝天皇陛下及其皇室之歡迎那麼樣的厚情盛意。

在此嚴肅壯麗的情景之內、和氣靄々、充滿左右、在場諸員、感激之餘、肅然起敬、天皇陛下又將各皇族殿下、依次介紹於皇帝陛下、皇帝陛下與各皇族一一握手、是時復奏國歌、皇帝陛下居於天皇陛下之左側、並肩而行、秩父宮殿下以下鈴木侍從長、本庄武官長等及原田翻譯官緊隨其後、受着諸員之奉迎及堵列於該月台的近衛儀仗隊之敬禮。

午前十一時三十六分、皇帝陛下在東京車站停車處、與天皇陛下暫時告別、即與秩父宮殿下、林接伴員、同乘四頭馭騎式儀裝馬車、沈宮內府大臣以下扈從官及接伴員大谷宮內次官等隨從於後、驅成七輛馬車、直向赤坂離宮、在歡呼萬歲的奉迎之中、安抵旅館、旋即天皇陛下也駕回宮中、滿洲國皇帝自新京出發以來、至到着赤坂離宮爲止、五日旅程、至此始行解除、暫時休息。午後一時四十四分、再行正裝、與秩父宮殿下、林接伴員、沈宮內府大臣等乘坐四頭馬車、駛入宮城、午後二時五分、到達皇宮之時、天皇陛下也與松平式部長官、在停車處樓上等候、表示歡迎之熱忱。

鳳凰室中、實行交驩之禮的時候、主人方面爲天皇、皇后兩陛下及秩父宮殿下、客人方面爲皇帝陛下、此外松平式部長官、原田、岩村兩翻譯官也侍立於側、湯淺宮相、鈴木侍從長、本庄武官長、廣幡皇后宮大夫、竹屋女官長等、均等候於隔壁房中、皇帝陛下的扈從官、則在休息室等候、天皇陛下首將椅子親送至皇帝陛下之前、致以最懇篤的歡迎辭、皇帝陛下也致以最熱誠的答辭、又對滿洲建國以來、我國皇室竭力援助、及去夏秩父宮殿下代表皇室訪問滿洲之處、表示深甚之謝意、日滿兩皇室的交驩、是極莊重！極典雅的。皇帝陛下更將該國的最高勳章大勳位蘭花章等贈於天皇陛下、又將大勳位蘭花大綬章贈於皇后陛下、表示最高之敬意。皇帝陛下旋即又將扈從官沈宮內府大臣等四十九名之高等官、介紹於天皇、皇后兩陛下之前、完成其意義深長的晤會、當着皇帝陛下退出之際、天皇陛下直送至停車處、皇后陛下也送至鳳凰室之門口、皇帝陛下與秩父宮殿下同乘馬車、午後二時三十五分、歸途赤坂離宮。天皇陛下在皇帝陛下離開宮城之後、午後三時三十分、也乘汽車、即行駕出宮城、與鈴木侍從長、湯淺宮相、本庄武官長等同道、直達赤坂離宮、表示答禮、皇帝陛下出迎於停車處、旋在狩室會面、對於皇帝陛下贈送勳章等各種儀禮、深致謝意之後、并贈以我國最高勳章大勳位菊花章、三時五十分辭退、三時五十八分途宮。是夜六時半起、天皇、皇后兩陛下、在宮中豐明殿之中、以皇帝陛下爲中心、各皇族殿下也出席、并召集日滿兩國重臣等一百六十名、設一盛大的夜宴、後在正殿、同賞舞樂的餘興、藉慰遠來的皇帝陛下之旅情。

皇帝陛下來訪以來、公然頻在各地、日夜受着日本朝野的熱誠歡迎、過其繁忘的生活、但仍照豫定日程、平安無事、遄回本國、這樣善始善終、誠屬可喜之至！

因着皇帝陛下的訪日、造成歷史的交驩、日滿兩國之盟約、當更鞏固、東亞和平的基礎、當更着實、這個事情、方是我們九千萬同胞與滿洲國三千萬民衆所同樣地渴望不已的、兩國互民的人心、當作如何的感想、這是可想而知的。

但仍照豫定日程、平安無事、遄回本國、這樣善始善終、誠屬可喜之至！

因着皇帝陛下下的訪日、造成歷史的交驛、日滿兩國之盟約、當更鞏固、東亞和平的基礎、當更着實、這個事情、方是我們九千萬同胞與滿洲國三千萬民衆所同樣地渴望不已的、兩國臣民的人心、當作如何的感想、這是可想而知的。

一方面慶祝日滿兩國皇室之隆昌、一方面祈望日滿兩國之繁榮、於是乎草成此稿。

自清朝 至滿洲國 的皇室之歷史

當着敘述滿洲國皇室之歷史、有遠自清朝興起、近至皇帝陛下爲止、將其間大體之歷史、略行記述之必要。滿洲近代之發達、不能不說是始於清朝的發祥之時、自肅慎而高句麗、自渤海而爲金、同樣地雄飛於長白山脈的滿洲族、亘於元明二朝、繼續其長久的雌伏、這個事情、是他們咬牙切齒而忍苦的地方罷、是以爲滿洲族的清朝、百戰百勝、建都北京、代替明朝而統治四百餘州、非但合於當代女真人之要求、實也可以說爲滿洲民族永久的光榮。

清太祖「努爾哈赤」、出於建川女真、明嘉清三十八年、生於赫制阿拉、「軀幹長大、且有巨耳、聲如洪鐘、騎射絕倫、聰明果斷、用兵如神。」據說是這個樣子、所以漸次征服附近、統一滿洲族、樹立建國之基、遂於西曆一六一六年、以五十八歲而自就汗位、國號稱金。

薩爾滸山之戰 如上述的、滿洲的諸部落、殆皆服從了、不過尚有葉赫部落、因恃自己之強及明之後援、抗命不服、所以努爾哈赤將此征服、復與明宣戰、在薩爾滸山展開乾坤一擲的大戰爭。該處距撫順僅八十清里、係沿於運河及蘇子河合流地點之小山、爲明杜松所統率之中央軍、布着陣地的地方。太祖之要塞地、設於對岸的鐵背上懸崖之上、有渾河之水險擺在前面。時爲明神宗萬曆四十七年春、杜松之明軍主力約三萬、自撫順方面前進時、突在間道受太祖之強襲、剎那間被其擊破、杜松俯首听命。太祖即時邀擊北路軍二萬、急遽回兵而破其南路、因斬其將劉某、所以朝鮮兵亦隨之降伏、右中路的明軍四萬、不戰而退回遼陽。是役也明軍失將士十餘萬、但是清兵的損傷、僅數百人、明清的興亡、也可以說決在此戰啊。後來清之高宗乾隆帝、經過此地、樹之讚美祖業的

紀念碑、至今尙存。

太祖繼取開原、鐵嶺、遂滅葉赫部而取遼河以東之地、因看見瀋陽之形勢、便於攻守、遂奠都於此、這個地方、就是現在的奉天。太祖方開始出於征明之舉、先一攻取第一線的遼西、於是諸城望風而降、但是在一區々的小寧遠城、激戰之後、被其擊退、快々不快、急行退陣、養疴於清河之溫泉、終不見効、享年六十八歲、與世長辭。

太宗即位 太宗三十五歲、即着汗位、內則太祖死後、兄弟及其諸子、皆不和睦、有不悅太宗即位者、外則因爲征明失敗、新興國唯一之財源的那個人參買賣、也陷於杜絕之狀態、實屬國步艱難之秋、唯太宗勇敢且富於謀略、故以英斷而實行第一次征伐朝鮮之舉。

太宗征鮮之原因、是因爲感着朝鮮與明之舊誼、曾於薩爾濟之役、援助明朝、今又援助海賊、而窺後金之側面、阻害其勃興、然其裏面、實爲思將鬱積的人心、使其轉於外征方面、人參之出口、求之於朝鮮的國策、這是不容隱的一個事、實啊。

第一次（一六二七年）征鮮之結果、使朝鮮約束兄事後金、且贈其歲幣、第二次征鮮、親統十萬大軍、長驅而陷京城、將朝鮮王圍於奉漁山、而結城下之盟、使爾後受清之封冊、然後凱旋歸國。

太宗既征朝鮮而絕其後顧之憂、然後進展至遼西地方、伸手而思經營內蒙古、也是當然之理。允然太宗親自督兵、包圍遼西之寧遠城、然而第二次猶是不能成功。當時內蒙古國威大振、領有東蒙古、又納歲幣於明、與明通好、因此受明之使賚、併命牽制後金之向遼西發展、太宗即親率大軍、征服內蒙古諸部落。

太宗在西曆一六三六年、國號大清、自稱皇帝、蓋當時漢族之歸屬者漸多、且又征服內蒙古、得着中國歷代相傳的傳國璽、因此改國號一新人心、將實現其建設包括滿漢蒙大帝國之理想。

太宗征服朝鮮及內蒙古、作爲對於明的左右兩翼之後、親征遼西、惡戰苦鬪之後、克奏膚功、又屢次侵入直隸、使首都北京受其脅威、五十二歲而殂落者、誠可惜也！諡爲文皇帝、葬於奉天之昭陵、是即今之北陵。

世祖即位 世祖即位之時、年僅六歲、所以初政之功業、不得不歸於叔父多爾袞、多

爾袞揚着征明之大旆、向遼西進發之時、明帝毅宗被逆賊李自成、殺害於宮廷之中。明將吳三桂、爲討伐逆賊起見、求援於清、因此清之征明、忽變爲救明之美名、旗鼓堂々、進兵入關、驅逐李自成之軍而入北京、且因爲明帝被刺、舉哀三日、下令安堵百姓、旋

爾袞揚着征明之大旆，向遼西進發之時，明帝毅宗被逆賊李自成、殺害於宮廷之中。明將吳三桂、爲討伐逆賊起見，求援於清，因此清之征明、忽變爲救明之美名，旗鼓堂々、進兵入關、驅遂李自成之軍而入北京、且因爲明帝被刺、舉哀三日、下令安堵百姓、旋自瀋陽迎來世祖、遷都北京、布告永遠君臨中國、時爲西曆一六四四年、卽我後光明天皇卽位之年也。

清朝自世祖入京以來、卽下薙髮令、命人民頭上皆編一滿洲式之辮子、翌年平定江南之後、更加嚴命勵行、江南各地、均豎有「留頭不留髮、留髮不留頭。」之牌、因此引起漢人非常反抗、但終究強制地使其屈服了。這個事情、固可視爲同化主義之反映、昭示滿人之意氣、然永釀漢人之不平、彼之長髮賊之亂、卽利用此反感、自這一點看來、可以想到這是一個大問題。

清朝不久又蕩平逆賊李自成、更在各地征服明之諸王、完全統一中國全部、這個實在是滿洲族的一大發展、以後二百數十年中、君臨其間、支配漢人、形成一有光輝之歷史。因爲供讀者的參考起見、將清代史、分爲三期、揚開於左。

- 1 清朝創業期 太祖·太宗·世祖、三代約五十年
- 2 清朝隆盛期 聖宗·世宗·高宗、三代約一百三十年
- 3 清朝衰退期 仁宗以下宣統帝止、六代約一百二十年

聖祖之功業 聖祖康熙帝、是中國歷代帝王中、最傑出的英主、他在位六十一年、的治績、燦然輝煌、發揮女真族的偉大能力、實堪刮目相看的。他的武功、卽是平定吳三桂等三藩之亂、鎮壓國內的不平。明的降將、自吳三桂以下、通都是稱王號的藩國、儼然爲一諸侯、大張勢威、內心將清朝視爲蠻夷、其態度頗橫暴、是以除去彼等藩主、在真正的統一一上、實爲焦眉的問題、然而年少氣銳之康熙帝、竟能將此芟除、建立清風百年的大業。

鄭氏降服之後併合臺灣

鄭成功原爲明之遺臣、割據臺灣、成一敵國、但是終究降服、臺灣全歸清領。

與俄國締結尼布楚條約、鞏固國境

這個條約、是發揮清之威力、阻止俄國之東侵的、自這一點看來、是非常成功的條約。

討伐噶爾丹而收外蒙古

國爲瓦剌之一部、準噶爾部之部長噶爾丹、得着勢力而亂蒙古、所以親率大軍遠征、大破於刺拉河畔、略取外蒙古。更進至西藏、將此置於清朝勢力之下。

內政方面、也整理官制、規定兵制、獎勵學術、因爲思收實益起見、使之研究西洋學術等々、形成所謂康熙・乾隆時代那種燦然可觀的文化。

帝在位六十一年、宏德大量、潛心民政、常以明吏治、嚴紀綱、作爲仁政之先務、是以力斥官吏之營私者、遇着水旱疾病、頻加賑恤、并且自己則以儉約爲旨、節儉宮室的營造等費以示其範、謹嚴持身、一切的起居飲食、均不失其節度、據說酷暑之時、也未曾脫過帽子、帝又好學、自講朱子之學、留心教化等々、實爲帝王中恒不世出之英主。

世宗(雍正帝) 世宗過於峻嚴苛察、遇有過怠、雖骨肉之親、也無所假借、又使密探、自親王內廷的細事起、以至地方官之小故止、幾乎無所不知、無所不曉、於是人心恟々、恐懼殊甚、以此細心與用意、統轄萬機、繼承父君康熙之大業、傳於其子高宗、厥功不可謂不偉者也。

高宗(乾隆帝) 亞於聖祖之英主、其治世亘六十年、內則國運昌隆、且武力赫々、聲震中外、與聖祖同出一軌、是以人將這兩個時代、稱爲康熙・乾隆時代、另劃一區、爲清朝國威最盛之期。

若說起他的武功呢、那末、因爲準噶爾部與天山南路之回教徒、時常擾亂清之西北邊境、故將此殲滅、旋即再行征朋天山南路、於是天山南北兩路、全歸於清之所有矣。

暹羅、緬甸諸國、均受清之封冊、成爲朝貢國、安南旋也成爲清之朝貢國、造成清朝最大之版圖。至於內治、則承父祖之緒、學術發達、制度美善、完成四庫全書、現出清朝之極盛時代。

今更將清之文化、略述於左

清代文物制度之發展、固不待言、是在康熙・乾隆時代、放著光輝。

今更將清之文化、略述於左

清代文物制度之發展、固不待言、是在康熙·乾隆時代、放著光輝。

官制 在中央政府之中、有軍機處、總攬政務、其下置吏、戶·禮·兵·刑·工六部司掌行政。

軍機處在世宗的雍正年間、始設置之、使其司掌軍國之機務、後漸得勢、遂掌內閣之實權、成爲最高直隸之府、六部及其職掌如左。

吏部 司掌任免官吏

戶部 司掌調查戶口及徵收租稅

禮部 司掌禮儀及教育

兵部 司掌軍事

刑部 司掌刑律

工部 司掌工藝

其他尚有理藩院及都察院等。

理藩院掌理藩部、都察院是監察百官的地方。

至於地方官制度、則分中國本部爲十八省、省之下置府·州·縣、每二省置一總督、每省置一巡撫、在其管轄之內、統治文武政務、其下有知府·知州·知縣、各掌其管轄內之行政。此外有布政使、司掌省內之財政、按察使管理刑獄。

因爲滿洲是清朝發祥地、所以特別置將軍於此

此等內外官吏、務必兼用滿漢双方之人、對於避免漢人的不平處、深加留意、所以比諸金·元時代、表面上似乎非常優遇漢人、其實對於滿人、總有情面、使其多佔便宜、并且漢人在數量上、固然超過滿人遠甚、而在登用率子上、也非常不同、是以絕對不能解除漢人之不滿啊。

兵制 清的兵制、分爲八旗與綠旗、八旗在太祖時代、最初是以滿洲人而編成的、分爲正黃·正白·正紅·正藍·鑲黃·鑲白·鑲紅·鑲藍。次以蒙古人、漢人各編成八旗、

所以事實上成爲二十四旗。這個旗兵，是皇帝的親軍，各有都統將此統率，主要目的是任北京之警衛，又使其駐防於國內樞要之地方。

綠旗是明朝滅亡之後，專以漢人而組織的常備兵，各省的提督將此統率，當着守備中國之任。

考證學的勃興

自宋·元·明時代以來，道學盛行，學者徒尙空理，往々生着流於空論之傾向，清初有顧炎武者，在舉證之上立論，崇尚事實之最正確者，努力考據，此之謂考證學。爾後這個學風大興，經學·史學·字學等的研究，極其綿密周到，究明事實，非常發達。在康熙乾隆時候，經學有閻若據·惠棟，數學有梅文鼎，史學有錢大昕，字學有段玉裁等有名學者出世，頗極一時之盛。

圖書集成與四庫全書

聖祖高宗，通都非常獎勵學術，召集知名之學者，使其編纂圖書集成及四庫全書那樣的有益的書籍。所謂四庫全書者，卽是網羅所有的經史子集，成爲一大叢書，廣行搜集中國古今之書籍，成爲十七萬二千餘卷，乾隆帝時，約費十年的大事業。

滿洲文字

滿洲自金時代起，就有女真文字，明代女真酋長所上之表，亦曾用此，民間沒有文字，甚不方便。清太祖卽位之前，感着有創設文字之必要，使其實行以蒙古文字而表現滿洲語，但蒙古語與滿洲語，互相差異，因此無表示滿洲語中特別發音之文字，記着意味相似之文字，所以未免大不正確，後想出區別同形異音之案，到輓近止還曾用着。

藝術 山水畫自明末以來，所謂南米的畫風，繼續地風靡一世，北宋殆衰微了。清初王時敏·王鑑·王翬·王原祈四人號爲四王，長於山水，其畫風稱爲水畫之典型，其中王翬是綜合南北畫風而大成的大家，他的傑作，人多稱爲畫聖。與四王同負盛多者，有吳歷·惲格二人，世以四王與吳惲並稱，在發達清代畫風之上，都是代表的人物。清代

畫風，也傳到我國來了，彼大雅堂之畫風，據說卽基於此，又如圓山應舉那麽樣的大家，相傳亦係學其風格，字則乾隆時代的劉墉·鄧石如等爲最有名的。

吳歷·憚格二人，世以四王與吳憚並稱，在發達清代畫風之上，都是代表的人物。清代

畫風、也傳到我國來了，彼大雅堂之畫風、據說即基於此，又如圓山應舉那麼樣的大家、相傳亦係學其風格、字則乾隆時代的劉墉·鄧石如等為最有名的。

宗教 宗教上當特記的事，即是佛教被高宗壓迫、漸形衰微、喇嘛教漸形發達的事。

喇嘛教 西藏舊來的喇嘛、因着紅衣紅帽、故號紅教。紅教喇嘛、自元時代起受皇室之優遇以來、其風儀漸次墮落、所以明初有名叫宗喀色的高僧、提唱改革喇嘛教（一四一七年）、這個改革派、因着黃衣黃帽、故號黃教、清朝世々信之、是以越加發達、宗喀色的後裔者、世々號達賴喇嘛、總管黃教。黃教如此漸得勢力、後流通於西藏全土、且得韃靼部長歸依之後、更流通於內外蒙古、頗極一時之盛。

這是清朝的利用政策、懷柔蒙古人、務必使其柔弱、是其一大導因。尤其是聖祖·世宗·高宗以下諸帝、皆熱心保護喇嘛教、在蒙古各地、勅令建築大廟、活佛也多年轉生、均被清朝、大加優遇、但是蒙古各旗、有『一人出家、九族升天。』之諺、極力地將次男以下、作為喇嘛、送於廟中、因為那種情形、所以大廟中有幾百人幾千人的喇嘛。這個風氣、至今尚是如此、彼等厭惡殺生、變為懦弱一層、是不可以爭辯一個事實。

風信 家屋制度、與我國不同、中流之家、成爲數棟、上流家庭竟有數十棟、父子·兄弟·叔姪·共居一家、多者一家有數十人或數百人、但是男女居室不同、絕對禁止男女間之交際、甚至不許見面、服裝普通用滿洲服、男子將辮髮垂於後面、女子的纏足、也是繼承從來的風俗、視爲很重要的。無論男女、普通均忌露着腰部以下、身雖極貧、盛夏亦必着衣、每年事故、多少雖有變遷、大概都是繼承隋唐以來的。

清 之 衰 微

概論 清朝開初靠着武力、滅明之後、領有中國、但是從來漸次同化於漢人之文化、失着滿洲人固有的武勇精神、所以第七代仁宗（嘉慶）以後、清朝入於衰退之期、從此以後、內憂外患、相迫而來、殆無大平之時。仁宗之時、河南·湖北等地方、首先有白蓮教、天理教徒之亂、貴州也苗族蜂起、擾亂國境、海岸一帶、則海賊出沒、實無寧日之狀態。其次宣宗（道光）之世、與英國惹起鴉片戰爭、清國失敗之後、締結南京條約、割讓香港、與以償金。

鴉片戰爭 在中國的英人、被葡萄牙人壓迫、久不得志、但自東印度公司掌握印度商權以後、頻行擴張中國貿易、終至於凌駕他人之上。英國貿易的主要者、是印度的鴉片、因此非但有害中國之民之生命、并且交付鴉片的現洋、所費甚巨、雖然屢次禁止吸烟及嚴行取締輸入、但是秘密輸入、有增無減、宣宗之時、林則徐爲欽差大臣、使藏在廣東的外國人商家之內的鴉片二萬箱、盡行燒滅、且今後禁止輸入鴉片、三令五申、嚴重管理。然而英國認此處置爲不妥、以保護貿易爲名、輸送艦隊於香港、自上海迫至南京、是以清不得已、只好講和、(1)交付鴉片的賠償金、(2)將香港割讓於英國、(3)開發上海·寧波·廈門·福州·廣東五港。是即南京條約(一八四一年)。

長髮賊之亂 鴉片戰爭之失敗、是將清朝威嚴、大失信於中外、所以宣宗一薨世之時(一八五〇年)、有名叫洪秀全者、起於廣西省、國號太平天國、舉叛旗而作亂。他的黨徒、反抗滿洲的風俗、不剃頭、不結辮子、被人稱爲長髮賊、這個事情、自然是想利用漢人對於滿人的不平。彼等又奉耶穌教、買歐美人的同情、唱復興中國、求漢人之好感、打破楊子江流域的各省、佔據南京。

此時八旗與綠旗之兵、士氣萎靡、不能爲用、所以宣宗之子文宗(咸豐帝)、詔於天下而募勤王之兵、但是官軍不振、賊將北進而迫北京。

英法軍之侵入 正在這個大亂之中、中國對於英法聯合侵入的軍隊、非常感着煩惱、這個事情、是因爲廣東的中國官吏、想逮捕犯人、檢查英國船亞羅號、對於英國之旗、與以侮辱、遂起紛議。又殆與此同時、法國牧師、爲廣西的中國官所殺、所以英法兩國、乘着當時各國均爲長髮賊之內亂所擾的隙、先行攻取廣東、更加進迫天津、因此文宗命在天津講和。

雖然、翌年青軍將因交換批准公文起見、想入京之英法兩國公使、突然在太沽砲台、以砲擊之、是以兩國聯合艦隊、直取太沽、進陷天津·北京、遂在北京郊外、焚毀華美的圓明園(離宮)。

文宗被難於熱河、留其弟恭親王、使與兩國議和、這是北京條約(一八六〇年)、(1)英法兩國公使駐於北京、(2)對於兩國、各給以賠償金八百萬兩、(3)開牛莊·芝罘·漢口等七港、(4)准許耶穌教自由布教、條約大約如此。

際此爭亂、俄國公使伊古奈其約夫、逼迫清國結愛璉條約(一八五八年)、今又立於兩者之間、試行調停、締結北京條約、作爲報酬、使其割讓俄國多年所希望的烏斯里江以

際此爭亂、俄國公使伊古奈其約夫、逼迫清國結愛璉條約（一八五八年）、今又立於兩者之間、試行調停、締結北京條約、作為報酬、使其割讓俄國多年所希望的烏斯里江以東之地、作為南下滿洲之根據地。

平定長髮賊 翌年文宗沒後、穆宗（同治帝）即位、年僅七歲、其生母西太后攝政、統治萬機。在這個時候、勤王之士曾國藩·左宗棠·李鴻章·相繼而起、遂破長髮賊而陷南京（一八六四年）、因此十五年間之內亂、方始平定了。

這樣一來、唱着興漢滅滿而起的洪賊、雖然平定了、但是鎮定叛徒之功績、當以曾國藩·李鴻章·左宗棠為主、多依漢人之力、如清之八旗·綠旗等、懦怯柔弱、不堪為用、於是漢人抬頭、誠為一可注意的事。因此此等有力諸將、突然榮達、握着中央及地方之實權、滿人的威力、漸々地衰微、清帝好像僅不過擁着虛位似的。

西太后與德宗 穆宗在位十三年而歿、因無嗣子、其從弟德宗（光緒帝）年僅四歲、即着帝位（一八七四年）、帝是醇親王之子、西太后之妹所生的、是以西太后繼掌國政、其勢力愈強。

歐洲列強逼迫清朝 德宗二十年—二十一年之間、大敗於日清戰爭、清將國力之薄弱、暴露於天下、因此虎視眈眈的歐洲列強、競相迫清、大家通都強要利權、通都成功。

法國（一八九五年） 得着廣東·廣西·雲南之採掘鑛山權。

俄國（一八九六年） 得着准許貫通北滿洲而布設西伯利亞鐵路之權。

德國（一八九八年） 租借膠州灣、將在山東的布設鐵路權及採掘鑛山權收入於手中。

英國（一八九八年） 得着威海衛的租借權。

俄國（一八九九年） 得着租借遼東半島與貫通滿洲南部的敷設鐵路權。

法國（一八九九年） 得着廣州灣的租借地。

事實如此、曾有一時、且流行瓜分中國之說。

戊戌政變 時正德宗年長、親自執政、清人中憤慨這個時勢、唱議有變法自強之必要者、次第增加、尤其是廣東的康有為、上書陳述其熱心的改革意見、竟為德宗所用、做着我國明治維新之例、大改制度、參酌西洋之文物、着手一大改革、然而西太后以德宗

案亂祖宗之法爲名，將他幽閉，康有爲逃於海外，其同志多被殺戮。這個事件，名叫戊戌政變。政變之後，西太后再行攝政，在朝之臣，均爲保守黨所固結了。

北清事變 耶蘇教自公許之後，外國的傳道之士，多來清國布教，彼等之行動，往往與中國官民，屢起衝突，所以一般清人，皆嫌惡耶蘇教。尤其是自諸外國強迫清國，奪取利得權以來，清人對於外國人之反感，更增其度，遂有以撲滅洋教，排斥外人爲主義的義和團，那麼樣的暴徒，起於山東，蔓延於華北一帶。彼等不久受清之皇族及大臣之保護而入北京，與官軍協力而攻擊列國公使館（一九〇〇年），所以日·英·美·俄·德·法·義·奧八國聯合軍，陷落太沽砲台，攻取天津，入北京而救公使館。西太后、德宗早已出奔於長安，暫時避難，留慶親王與李鴻章於北京，使其講和，相約出賠款四億五千兩，送謝罪使於列國。

清國之覺醒 西太后與德宗，待義和團結束之後，還歸北京，旋起日俄戰爭，我國大勝，於是乎痛感其發展與成功，革新事業，皆以我國爲模範，如此清人之留學於我國者，一時數至一萬，我國人之爲清人的教師者，也有千人左右，無論制度、文物·學術·教育等各方面，實皆爲日本文化萬能的時代啊。

西太后比諸從來，更加用意於滿漢人之融和，決心採用立憲政治，遂公布十年之後，定開國會之豫約，然而不久德宗·西太后，殆同時死去，德宗之從子宣統帝即位。

宣統帝年僅三歲，其父醇親王攝行國政，聽民間之輿論，將開設國會之期限，短縮爲六年，只管急於準備，然後因爲政府的覺醒，逸其機會，所以漢人的革命氣運，非常增高起來了。

革命黨 清代比較歷朝中國的統治者，頗多英主明君，且比較金·元，更優待漢人，然而從始不以受滿人之支配爲快，清之中葉以後，滿人之勢力漸衰，也不充分取締漢人，尤其是內治外交，陷於不振，漢人對於滿人之不平，更加激烈，遂有打倒清朝的革命黨起來了，這也是當然的事情啊！，廣東的孫文，就是這個革命黨的首領。

適遇清廷計畫鐵路歸於國家直接管理，地方民心，因此愈生動搖，革命黨乘此機會，遂舉叛旗，高翔於武昌之上空，南部及中部各省，相繼響應革命黨，其勢甚不可侮，遂在南京建設臨時共和政府，那個時候，孫文正自海外歸來，於是舉伊爲臨時大總統。

清帝退位 清廷即派遣討伐軍，使其討伐革命黨，竟未十分成功，因此使滿人的醇親王、停止攝政，而使漢人的袁世凱，專行收拾時局。是時人心已傾向共和，袁世凱的態

清帝退位 清廷即派遣討伐軍、使其討伐革命黨、竟未十分成功、因此使滿人的醇親王、停止攝政、而使漢人的袁世凱、專行收拾時局。是時人心已傾向共和、袁世凱的態度也極曖昧、毫不表示誠意、所以宣統帝不得已承認共和政體、允諾退位、南北妥協、終告成立。清之君臨中國、有二百六十八年、若自大祖算起、即是二百九十七年、一時竟至於中斷了。事至於此、有史以來的大君主國、一變而為東洋唯一的共和國、成為漢人獨霸的舞臺。

日滿共存共榮

日本自滿洲建國之始、即痛感宜協力於此大事業之光榮、進而甘受其大建設之前的大犧牲。

滿洲國所渴望不已的建設王道樂土、那個東西即與日本所希求不得的確保東洋和平、同一意思。所有阻止建設滿洲國的東西、既是破壞和平者、應當將此排擊的事、正是日本的使命兼且日本與滿洲國、是以同胞之血所繫住的、我們不能忘却那種天命、唯獨與日本血脈相通的滿洲國、纔是先輩同胞的遺腹、養育產生於同胞所流過迎的聖地的新國家、使其為人類的平和鄉的事情、這是日本全國民的義務、也可以說是特權。

根據這個信念、日本自事變以來、一方面過着中國的猛烈的宣傳、他方面立於閃着如雷電似的那種國際的批判的眼光之前、尚且不屈不撓、絕對擁護自身主張、向其所信蠻幹下去。

縱然今後日滿的前途、或潛伏着多少暗礁、然而日本國民、舉起正義之旗、不會忘記前進之路。

滿洲國的成敗如何、是與日本之存亡有關、滿洲國之興廢、唯視日本的動靜為轉移、日本與滿洲、是異身同體的、日滿共存共榮乎、抑日滿共死共亡乎、我們應走之路、唯有這兩個方面而已。

事實上滿洲國的繁榮與否、也可以說是日本能為東亞盟主、或平和的擁護者與否的試金石啊。

日本及日本國民、始終當從大局着眼、當常常在道義與信念之下、善行引導滿洲國人、使他們跟着日本、有所謂「步亦步、趨亦趨」的意念、使他們起一種敬慕之情、同時在萬無遺漏的緊密之下、唯有向着共存共榮的理想道上、邁進下去。

日滿經濟提携之必要

我國同胞既在滿洲受過三次流血之洗禮、又在過去四個半世紀之中、以二十餘萬人的心血、培植這個滿蒙的天地、建設這個滿洲國、那非但是一個普通的好隣而已、那是與日本有須臾不可忽離的關係啊。

上述的滿洲國的興廢、是與日本的存亡有關、這個事實、一看「生命線」的意義、也就知道是彰明較著的罷、尙且滿洲自身、苟無日本之威望與實力、到底不能期望作爲一個獨立國而存在着、即是日本與滿洲、唯有互相協和、互相提携、然後才可以期待其發展啊。

狹小的日本與廣大的滿洲、人口過多的日本與人口稀薄的滿洲、缺乏資源的日本與資源富裕的滿洲、工業發達國的日本與原料供給國的滿洲、這豈不是一個好對照嗎！

日本與滿洲、唯有打成一片、有無相通之時、日滿兩國、方才是爲虎生翼、其前途是非常光明的。

若將滿洲新國家、奠於磐石之安、確保東洋之和平、那就不能不確立其經濟的基礎。現在日本送了許多優秀的日系官吏於滿洲國政府、或將南滿洲鐵路公司有深甚經驗及新銳技術的人、使當着整理或擴張滿洲國交通之任、此等事情、一方面係指導或援助滿洲國政治的經濟的鞏固、他方面也係育成兩國繁榮的基礎啊。

滿洲的資源與日本

滿洲各種資源、比較日本、如何豐富、將來如何有望、兼且今後開發此等資源、對於日滿產業界、推而至於兩國之運上、當與以如何的影響、全是應當研究的問題。

農產 滿洲是農業國、現在已經開墾的地方、不及可耕之地的面積二分之一、穀物每年產額、達一千八百萬噸、供給三千萬人民需要之後、尙可輸出六百二十萬噸、即是全生產額的三分之一、消費於本國、其餘三分之一、輸出於外國、

農產 滿洲是農業國、現在已經開墾的地方、不及可耕之地的面積二分之一、穀物每年產額、達一千八百萬噸、供給三千萬人民需要之後、尚可輸出六百二十萬噸、即是全生產額的三分之二、消費於本國、其餘三分之一、輸出於外國、輸入於日本國內一般農產物總額之中、有百分之三十五、是滿洲的農產物。

農產物之中、大豆實居首位、約占全世界總產額的六成、滿洲國中固然是重要的物產、同時作為世界的商品、在歐美各國市場之中、也佔優勝的地位。

其他高粱·粟·玉蜀黍·小麥等出產甚多、陸稻有一百八十萬石、水稻有一百六十萬石的年產額、這也是我們應當特別注意的。且將來增加到三千萬石的程度、據說也是很容易的。

林產 滿洲北部（松花江·牡丹江·及豆滿江之上流·鴨綠江右岸地方）、是森林地帶、約佔滿洲全土三分之一、樹木蓄積料。有一百五十億那麼樣的豐富、還有未加斧鉞的密、林、因此老齡過熱的木材甚多。

現在日本內地需要木材之量、約四千八百萬石、其中三成五分是輸入的、尤其是美國材木、佔着八成、將來日本的需要量、漸々增加、而美國的供給能力、漸々減少、這是大家所承認的、在這種情勢之下、居於日本的最近距離之內、且縱橫皆有森林包圍着的敦圖線和站漢線、兩條新設的鐵路、既已完工、朝鮮北端的羅津、現在也已開為商埠、滿洲國的林產、將來很可以貢獻於日本、真是明若觀火啊。

畜產 現在日本、因為僅國內的生產量、到底不及消費量、所以羊毛·牛肉·雞肉·牛乳·乳製品·牛皮·馬皮等、不得不仰給於滿洲及海外各地。

尤其是羊毛的輸入比率、到了國內全消費量百分之九九%九、殆皆自澳洲輸入的、對於這個事情、首先應當考慮的、就是在滿洲有二百六十萬頭羊罷。滿洲原來的羊、是毛肉兼用的、毛質粗惡、毛量貧弱、但是若把這個羊使與墨利諾種交合、產出雜種出來、那麼、毛量要多三倍、毛質也可以得和墨利諾種同樣的優良品、現在南滿洲鐵路公司、正在銳意改良、所以將來的羊毛、是很有希望的。

鑛產 鑛物資源、也可以說是工業資源、滿洲的豐富的鑛物資源、作為日本重工業的對象、是一個很有力的存在、滿洲的鑛產地區、尙未完全踏查、僅々現在已發見的、也

有二千個地方以上，并且差不多通都具有金屬礦物、輕金屬礦物、非金屬礦物。

鐵的需要、稱爲文明的寒暑表、現在日本需要鐵礦、年額三百七十萬噸(噸)之中、自中國及南洋輸入的、約佔八成。縱然將這個額子將求之於埋藏國內的鐵礦、然而總埋藏量只有八千萬噸(噸)、所以約過二十年、日本真是寸鐵莫名、尤其是列國的埋藏鐵礦量、均是十億噸(噸)以上、以日本的埋藏量比較起來、到底不能與世界列強爲伍。不過加算滿洲的十二億噸(噸)、鐵礦一端、確實可以自給自足。南滿鐵路公司方面、每年產銑鐵百萬噸(噸)(以下准此)製銅每年產八十萬噸(噸)自大正八年起、鞍山製鐵所、開始營業、年年生產二十八萬噸(噸)的銑鐵、生產能力、保有四十萬噸(噸)。就是日滿合辦的本溪湖煤鐵公司、每年生產製鐵八萬噸(噸)以上、將來把此等製鐵所、統制而擴張之、確立日本製鐵的自足自給之國策、斷非難事。

石炭 埋藏量大約四十八億噸(噸)、依着今後的調查、恐怕更要增大罷、然而如現在南滿洲鐵路公司所經營的、有東洋第一的大露天濠溝、年產七百萬噸(噸)、其中二成分、輸入於內地、稱爲日滿統制產業的試金石、那個將撫順炭移入於內地的制限問題、今日也已經圓滿解決了、照着合理的協調、實行移入。

油母頁岩 這是在撫順炭田之上面、包在四百五十呎的深處、現着紫黑色的岩層、埋藏量約五十四億噸(噸)、其含油量、大約是六%、所以採取三億噸(噸)以上之原油、也是綽綽有餘的。南滿洲鐵路公司、很早就着手於這個利用法、在撫順設置製油工場、現在重油有四萬八千噸(噸)、此外還有骸炭等副產物、該工場不過只是完其第一計畫的設計、將來擴張之時、對於解決我國液體燃料問題、也係一個重要的存在啊。

其他還有金·銀·銅·鉛等礦產、大石橋附近的瑪劣沙、煙臺、本溪湖附近的耐火粘土等、也應當特別注意罷。

新興滿洲國之使命

作爲保護亞東永遠和平的盟友、將其重責負於双肩而生的新興滿洲國、其將來真好像似大海一般、汪々洋々、無可限量、既有本國無限的寶庫、又有盟邦日本的援助、着々

整理內政、敦厚外交、東洋天地、真是滿佈着平和之氣象、雖然、西歐諸國的风雲、總覺得漸告緊急、不安的狀態也是日增一日、當此時也、萬不可忘記的、就是應當完成其所果的一半重責的事。曾經以滿洲爲發祥地、

整理內政、敦厚外交、東洋天地、真是滿佈着平和之氣象、雖然、西歐諸國的風雲、總覺得漸告緊急、不安的狀態也是日增一日、當此時也、萬不可忘記的、就是應當完成其所課的一半重責的事。曾經以滿洲爲發祥地、號令中華全國的清朝、歡迎其徒前的宣統帝爲皇帝、宣明國是於中外、既然如此、就當注重全力於確保東洋和平、推而至於貢獻世界和平、這纔是滿洲國建國的一大使命啊。

昭和十年五月十日印刷
昭和十年五月十五日發行

定價金壹圓五拾錢

不許
複製

編輯者

郁文舍編輯部

發行兼
印刷者

角田善苗

東京市神田區鎌倉町十一番地

東京市神田區鎌倉町十一番地

發行所

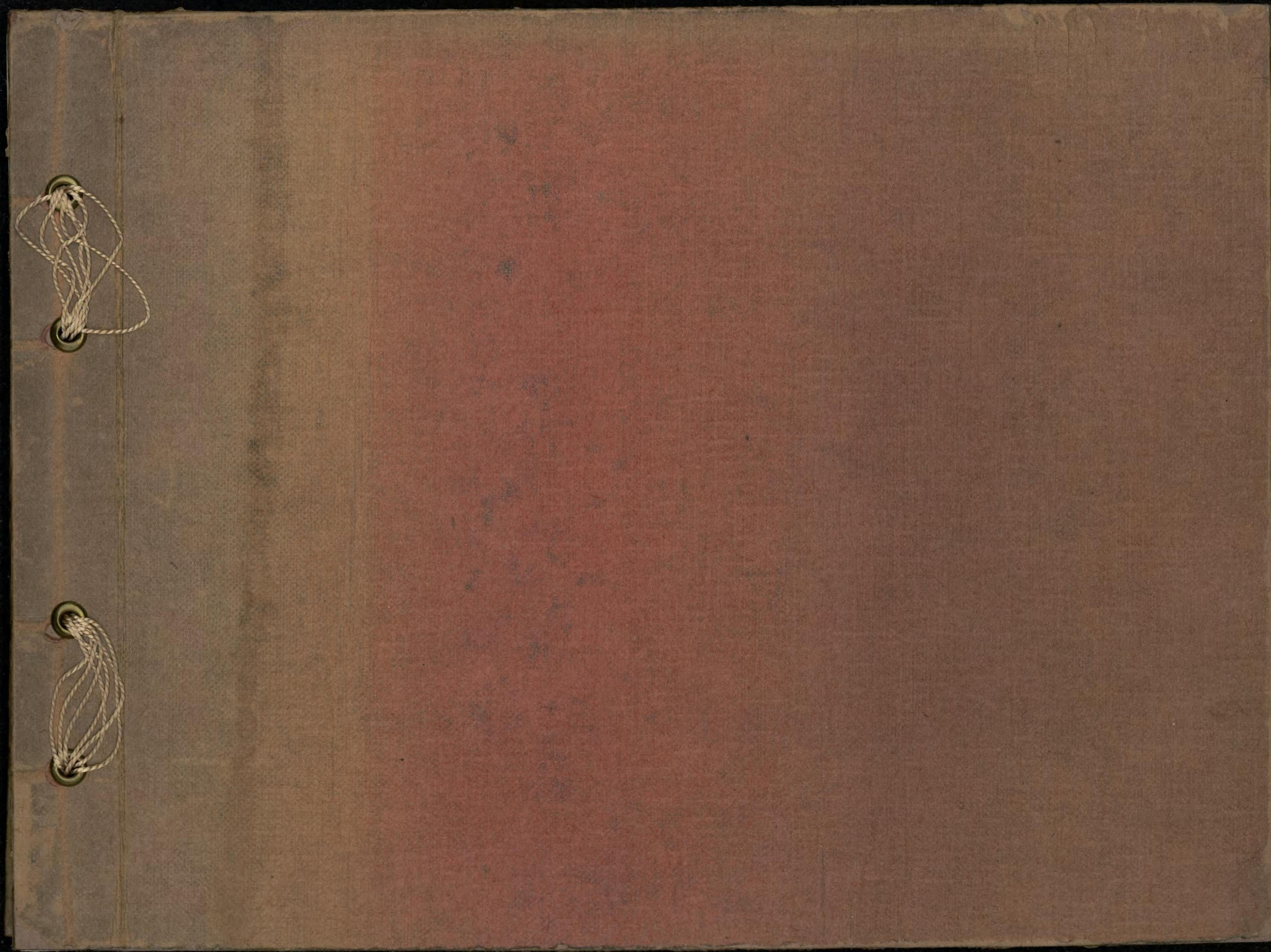
郁文舍出版部

電話神田(25)六九一
番替貯金東京三一〇番

所刷印舍共三 地番一十町倉鎌區田神市京東 所刷印

609
416



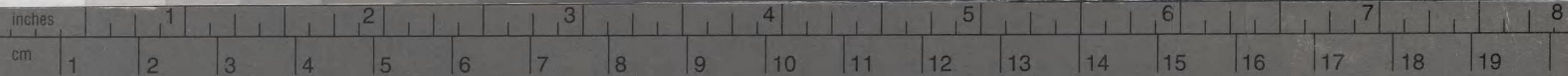


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

